

基本情報

所属: 総合理工学研究科 物理情報システム専攻 中村研究室

留学先国名: フランス

留学先大学名: パリ第7大学

留学先大学所属: Master pro. 2 mécanique physique, parcours Capteurs et CND

留学期間: 2007年7月～2008年6月

報告書内容

① プログラムについての概略

ルノー財団のCycle majorsというプログラムに参加しました。このプログラムは一人ひとりがパリで自分の専門分野に近い授業を受けたり、研究室で研究をしたりできる自由度の高いプログラムで、私の年がパリの大学への受け入れが始まった2年目でした。私は専門である超音波の知識を深めようと、パリ第7大学の修士2年のコースに所属して授業を受けました。クラスに私以外留学生がいない状況で授業を受けるのは少し大変でしたが、フランスの大学の授業の雰囲気が体験できました。

また、フランスの修士課程には数ヶ月の研究室または企業での研修期間が含まれます。私はESPCIという学校の中にある、LOAという音波の研究室でその期間(4ヶ月)を過ごしました。言葉が少し不自由なので研究は順調、というわけにはいきませんでした。その分、本や論文をたくさん読み、ディスカッションをしたので知識も増え、間違いなくよい経験になりました。

② 留学前の準備

私は修士2年の夏に留学を開始し、12ヶ月の留学だったのでちょうど1年後に卒業することを目標にし、6月末に修士論文の中間発表を済ませて渡仏しました。

ルノープログラムの情報は、フランス留学を予定していた東工大の同級生に紹介されました。今年からはルノー財団の留学プログラムのwebページも充実して来ている様なのでそれを参考にするのも良いと思います。ここでは過去のプログラム参加者に連絡が取れるようになっているようなので、自分と分野の近い人に相談してみるのもよいかもかもしれません。

私は渡仏前の語学力が充分でなく、プログラムへの参加が決まってから、60時間の仏語の授業履修が参加条件になっていました。週数時間の授業ではこのノルマはクリアできそうになかったため、日仏学院の春休みの10日間の集中研修に参加しました。(全部で65時間だったと思います。)その後は継続して日仏学院で毎週会話のコースに通いました。これは2時間/週でした。

留学先での研究テーマは事前に現地の担当教官と相談しておきました。初めて連絡先を知ったのはプログラムへの受け入れ許可のメールをもらったときだったと思います。その後、自分の書いた国際学会用の英語の記事を送って、テーマを決めてもらいました。ちょうど私の扱っていたものと近い内容があったのでスムーズに決まりました。

③ 留学中の勉学・研究

フランスでM2のコースに所属したので、受ける授業は全て決まったものでした。他にも受けたい授業がありましたが、時間的に無理でした。しかし、年が明けてからは少し時間に余裕ができたので、大学の留学生用のフランス語の授業も週に4時間受講できました。

④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

学校のバカンスが多いと言われるフランスですが、私のコースには冬休みの2週間しかなく、あまり余裕はありませんでした。しかし、祝日を利用して高校時代の友人が修士過程をしているロンドンと、エジンバラへ旅行に行きました。英語圏はまたフランスと雰囲気がかなり違っており、印象的でした。ヨーロッパ内の旅行は安く気軽にできるので、もう少しお休みがあればいろいろな所に行ってみたかったです。

パリの中では趣味である、現代美術の鑑賞に余裕のある週末を費やしました。およそ50の美術館や博物館をこの滞在中に訪れることができました。

⑤ 留学費用について

全てルノーから支給される金額で足りました。

⑥ 留学先での語学状況

授業は「英語」の授業を除いて全てフランス語で行われました。最初、アルファベットの板書を見慣れなかったため読取るのに苦労はしましたが、3ヶ月程で慣れました。研究室では英語を使う事もできましたが、フランス語での研究に挑戦しました。

渡仏直後の7月と、最後の6月にTFIというフランス語版のTOEICを受けました。6月に受けたのはまだ返って来ていません。最初に受けた点よりもあがっているとは思いますが。

⑦ 就職活動について

特に気になっていたのは就職活動の開始時期に日本にいないことでしたが、webでエントリーをし、企業に直接コンタクトを取る事により、帰国後に面接をもらえる会社は何社かありました。今後面接をする予定です。

⑧ 留学先で困ったこと(もしあれば)

Cité Universitaire(パリ国際大学都市)は大学関係の学生や研究者がたくさん住んでいる寮がたくさんある所で、ここの中に滞在の相談にのってくれる場所があったし、ここでだいたいの手続きは済んだので困ったことは特にありませんでした。

ちなみにこのCité Universitaireが主催している語学の授業も3ヶ月程受講しましたが、なかなか面白いクラスで、時間

があれば受けてみるのもよいと思います。

⑨ 派遣交換留学を希望する後輩へアドバイス

フランスで学ぶということは英語圏で勉強するのとはまたひと味違った体験ができると思います。ほとんどの人にとってフランス語はなじみの薄い言語ですが、英語にも似ている部分があり、語学を勉強する楽しさも味わう事ができると思います。

また、フランスにはいろいろなルーツを持った人がいるので、いろいろな体験もできます。辛いこともあると思いますが、きっと周りの温かい人たちが助けってくれると思うので、挑戦してみる事をお勧めします。